

開催報告

あぐりフレンズ・東京

生産者を訪ねて話そう!!

～「東京農業の縮図」八王子市の農業を知る～

大都市、大消費地東京にも畑があり、多品目の野菜などが生産されていますが、農家の高齢化などで休耕地も増えています。そんな中で、都市近郊の特徴を活かして幅広い農業や酪農を営み「東京農業の縮図」ともいわれている八王子市を生産者を訪ね、生産者の農業にける思いや東京農業の可能性などお話を伺い交流しました。



主催：JA 東京中央会／東京都生協連

開催日：2014年7月15日（火）

参加人数：78名

（生協参加者48名、一般参加者7名、生産者5名、JA 八王子9名、八王子市職員2名、JA 東京中央会3名、東京都生協連4名）

《スケジュール》

8：45 新宿出発

9：25～ 道の駅「滝山」着

・買い物

・道の駅「滝山」の概要説明

産業振興部農林課職員

10：15～ 開会挨拶

・JA 八王子 組合長

立川 正晴さん

・東京都生協連 専務理事 竹内 誠さん

・JA 東京中央会 常務理事 井上 和美さん

生産者のお話

・石川 研さん

・澤井 孝行さん

・澤井 ちか江さん

11：50～ 昼食

12：50～ ・花の寄せ植え体験 石川 耕平さんご夫妻

・圃場見学

（合鴨農法の田圃・パッションフルーツの圃場）

15：30 新宿解散

たくさんのご応募があり、バス2台に分乗し、訪問しました。



JA 八王子
立川組合長

八王子は、トマト、小松菜、なす、大根、など多品目の農産物が生産できる土地柄で、都内随一の農地面積と農業生産高を誇り「東京農業の縮図」といわれています。直売所や庭先販売も多く、地産地消が進んでいます。



東京都生協連
竹内専務

「あぐりフレンズ・東京」は、東京の農業活性化につなげたいとJAと生協が協力し2006年よりスタートしました。当初は、大根を作って沢庵をつけるという体験をしました。いろいろな体験や見学、交流を通し、東京の農業を知り消費者と生産者の相互理解を深めています。



JA 東京中央会
井上常務

「東京に農業は必要だと思うか」というアンケートに約80%の人が「そう思う」と答えている一方で、農地はこの10年で約1300ha減少しています。農業者は皆さんに美味しい農畜産物をお届けするために、毎日頑張っています。ぜひ、都市農業を応援していただきたい。



道の駅「滝山」は、都内初の道の駅です。

地元農家で生産された新鮮な農畜産物の販売はもちろん、地元食材を味わえるフードコートが充実しています。



合鴨農法のお米や高月産のお米も販売しています。

パッションフルーツの加工品（チョコレートやキャンディー、クッキーなど）は、道の駅「滝山」で販売しています。



昼食は、道の駅「滝山」にあるお惣菜「はちまきや」の八王子産の生産物を使ったお弁当

生産者の講演と圃場見学



美しい風景と高月清流米 石川 研さん

「高月清流米」は八王子市高月地区で栽培されたお米です。高月町は八王子市北部、多摩川と秋川の合流点の南西の丘陵地帯に位置し、高月城、滝山城といった戦国時代からの城址があり歴史的にも重要な位置にあります。何よりこの地域は、水源となる秋川からミネラル豊富な水が田圃に注ぎ込まれ、おいしいお米がとれます。昆虫や鳥などの多数の生物も生息しています。自然や田圃を残しながら生活し続けること、農業を続けることは、地域を守り土地の歴史を次につなげるといふ役割も果たしています。

地域全体で減農薬栽培を手掛けています。



パッションフルーツ！ 若手生産者の挑戦 澤井 孝行さん



皆さんは、パッションフルーツをご存じですか？八王子市の新しい特産品として注目を集め始めているパッションフルーツを8人の若手生産者で組合を設立栽培しています。きっかけはメンバーの一人が小笠原諸島から苗を持ち帰ってきたことです。未知の果実の栽培に戸惑うこともありましたが、試行錯誤を重ね収穫量を増やしてきました。実が入るかどうかは受粉で決まります。高品質な果実を作るため一つ一つ手作業で受粉を行っています。甘さと酸っぱさのバランスが絶妙なまさに南国の味です。また、葉の緑が鮮やかで、グリーンカーテンとしての需要も増しています。



実が入るかどうかは受粉で決まります。高品質な果実を作るため一つ一つ手作業で受粉を行っています。



八王子の夏は暑いですが、冬は霜が降ります。苗は毎年春先に植え替えています。

まずは、このフルーツを多くの人に知ってもらおうことが課題です。



米に野菜に畜産に 澤井農場のこだわり農法 澤井 ちか江さん

田圃に入れた合鴨は、雑草や害虫を食べてくれるし、稲をくちばしでつつく刺激は稲の生育を促します。泳ぐことで土を掻きまわし、フンは有機質肥料になります。合鴨の助けを借りて農薬と化学肥料を使わないでお米を栽培しています。そのお米から米粉製品（シフォンケーキやクッキー等）を作り販売しています。また、東京発のブランド豚肉「TOKYO X」を豚の健康に配慮した快適な環境で飼育しています。その他、小麦やいろいろな野菜を作っています。地産地消をすすめ、日本の農業を元気にしたいです。



ネットで囲んだ合鴨農法の田圃を見学。稲の間からピピピとかわいい声が聞こえます。

花の寄せ植え体験

この地域では、シクラメンをはじめさまざまな花卉が生産され、都会の暮らしに彩りをあたえています。



今回、夏にかわいい花を咲かせる“ポーチュラカ”の寄せ植えとその後の手入れの仕方など、石川耕平さんご夫妻に教えていただきました。



アンケートより抜粋（アンケート提出47枚）

<感想>

- ★田圃を守ることが生物を守り人の命を守ることに繋がっていくというお話がとてもよかった。東京の農業を応援したいと思いました。
- ★厳しい農業環境の中、意欲を持って農業に取り組む方々のお話と圃場見学はともよかったです。
- ★若い方々の創意と女性のパワーが、農業と六次産業化のカギだと実感しました。
- ★「東京農業を応援するぞ!」と思いました。

<生産者へのメッセージ>

- ★東京でありながら、きれいな清流を生かした高月清流米を初めて知りました。自然は大切なんだなあと感じました。これからも作り続けてください。
- ★パッションフルーツにかかる熱意と意気込みを頼もしく感じました。努力が実りますように！
- ★合鴨農法は一石二鳥どころか、よいところがたくさんあるのですね。これからも頑張ってください。
- ★寄せ植えは簡単で説明もわかりやすかったです。若い方が頑張っている様子が嬉しかったです。